



肥後民家村



陶

芸教室で陶芸体験
を経験された人も
多いのではないで
しょうか？

肥後民家村にも陶芸の楽し
さを手軽に体験することので
きる陶芸工房「万世窯」があ
ります。

この工房は、陶芸同好会の
人たちが運営されています。
会長の小川さんは、定年を機
に、陶芸を始められ、やがて十
年が経ちます。小川さんにお
話を伺いました。

「現在、同好会の会員数は
十六人です。最初は、五人程度
でしたから随分と増えたもの
です。お互いに来たい時に来
て、教えたり、教わったりしな
がら、それぞれの個性を伸ば
すようにしています。万世窯
の陶器には、特徴のないことが
良い意味で特徴だと思ってい
ます。会員の数だけ、陶器にも
特徴があるようなものです」
と、にこやかに話されます。

「体験をされる人
も増えてきました。
地元小学校でも、ク
ラブ活動で陶芸体験
が行われています。

また、体験に来られ
るお客さんは、町の
ホームページを見て
来られる人が多いよ
うです。」と、今後の
PR活動に参考にな
るお話も聞くことが
できました。

この日も、たくさんの方の
人たちと、体験をされるお客
さんたちで賑わっていました。
特に毎週金曜日は、窯入れ窯
出しの日とあつて、みなさん
も作業に熱が入ります。

「民家村は自然がいっぱい
です。そして、その中で集中
して作品を作ることができま
す。また、体験に来られたお
客さんと会話を楽しむことが
できるのも楽しみのひとつで
す。実は、同好会の会員に男性



陶芸同好会 会長

小川 大治郎 さん

が少ないので、是非、町内の男
性の人に加入していただきた
い。」と、話す小川さん。

作品は、陶芸工房の中で展
示販売が行われています。是
非、ご覧ください。

また、陶土に初めて触れる
初心者の方から、陶芸作りが
趣味の愛好家の人まで陶芸に
興味をお持ちの方は、陶芸同
好会へ加入されてみてはいか
がでしょうか？

陶芸体験(要予約) 1人1,200円から

同好会会費 月2,000円(材料代別途)

営業日 木曜日から日曜日

営業時間 午前9時から午後3時まで

問い合わせ先 090・5945・5065(万世窯)

0968・86・2269(小川まで)

歴史調査の楽しみ方

萩原城跡

はぎわらじょうあと

日

平城跡のI郭に立ちますと、北東に萩原城跡、北西に小岱山が眼前に迫り、西方には、

有明海が広がり、天気次第では島原半島の普賢岳が姿を現します。そして、何よりも大事なことは、旧菊水町の南城が一望できる事です。先月号では、この山頂箇所を「国見の場」と表現しました。城主の小森田氏も、この場所から領地を眺めて、御満悦だったのでしょう。

今回は、日平城跡と同じ山城の萩原城跡を取り上げます。両城跡ともに、円錐形の高山に築かれており、大規模造りの堀切に城造りの共通点があります。日平城跡を説明する上で参考となる山城です。

萩原城跡の麓集落(城下町)は、萩原地区です。集落は、県道大牟田・植木線の脇道から、北東へ400m進んだ所にあります。南西側以外の三方を、標高200m前後の山や、丘陵に囲まれた小盆地で、真東に萩原城跡が位置します。登るのに容易ではない急峻な山(標高178.6m)に築かれた山城です。

麓集落については、同一尾根筋の納豆山(標高157m)下の諸井地区と、尾根を跨いだ東下の寺米野地区(山鹿市鹿央町米

野)にも拡大が見られます。萩原城跡と三麓集落の関係は、日平城と蜻浦・日平両集落の繋がりと同じです。

萩原地区には、集落の最上部に位置する「お花畑」の小段が注目されます。場所と地名からして、この区画が城主の館跡でしょう。東縁下には、平成2年まで「水汲み場」も残っていました。北縁の坂道は登城道で、山腹中の「梯子坂」を経由して、山頂のI郭に至ります。

『元禄国絵図』によると、萩原本村は「米野村の内萩原村」と記してあります。この時、萩原と寺米野は一つの領域であった事が分かります。

縄張りを説明します。お花畑の登城口から、急峻な山腹を喘ぐように登り、緩傾斜地の北側尾根筋に上がると、程なくしてI郭の山頂に至ります。所用時間は約30分です。北側尾根は、大方が自然地形のままで、直下斜面の小段地形のみに人工地形が見られます。

一方で、山頂から北東側に延びる本体尾根筋は、直線的に下ります。この間の尾根筋は、段差と3本の堀切で三区画に区分され、山腹は急傾斜地となります。そのため、中世城に特有な小段地形はありません。

熊本県立装飾古墳館

館長

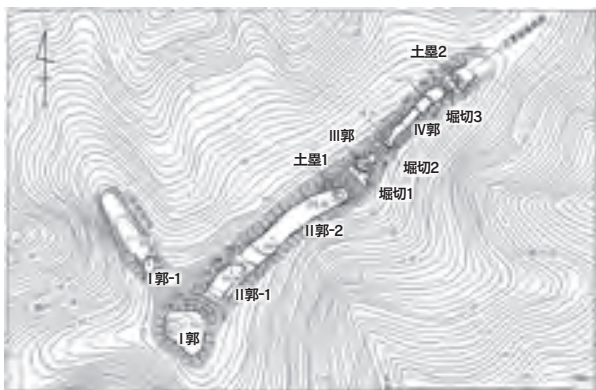
大田 幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)

ん。堀切は岩盤を掘り窪めたもので、大規模工事の痕跡が伺えます。I郭とII郭には平場があります。

尾根や山腹に井戸は無く、溜め置き水に頼っていました。北側麓の岩清水の場から運び上げ、水甕に備蓄しました。谷間は「水汲み谷」と呼ばれています。兵士には、かなりの負担があったと思われます。

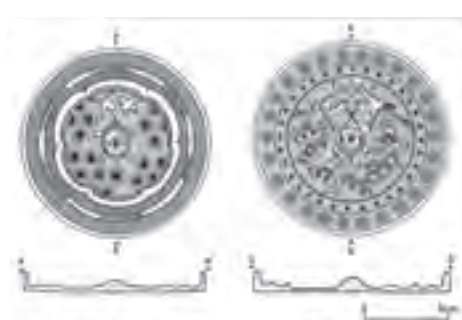
萩原本村と寺米野には、城に係わりがあると思われる3枚の和鏡が伝世しています。戦国時代の様式が感じられ、萩原城に見合う鏡です。



▲萩原城測量図



▲萩原城跡周辺図



亀紐双鳥文鏡
(萩原本村)

亀紐双鶴梅花文鏡
(寺米野)

※寺米野にも城下町としての地名や(伝)城主墓が残っています。
※各図面は『鞠水町史』通史編から転載しました。